

# 多様な入札契約方式モデル事業報告会の概要

## 日時・場所

日時：平成28年4月25日（月）14:00～16:00  
 場所：中央合同庁舎2号館 第2会議室A・B

## 出席者

26機関（47名）

## 説明者

国土交通省、支援を受けた地方公共団体

## 報告内容

①多様な入札契約方式モデル事業の概要 ②平成27年度取組結果 ③平成28年度募集要項 等



## 参加者からの感想

- 様々な入札契約方式があることや、事業の抱える課題を把握した上で、最適な入札契約方式を選択・組み合わせることが重要であることが理解できた。
- 発注者体制の脆弱化や公共工事の性格の多様化により、従来の発注方式に対する不安があったため、多様な入札契約方式の活用事例を参考にしたい。
- モデル事業の案件と同様の課題を抱えているため、今後実施する事業における発注方式を検討していく上で参考となった。
- 具体的な事例を通じて、支援を受けた地方公共団体の担当者から説明や感想、採用した入札契約方式のメリット等を聞くことができたため、理解が深まった。
- 大規模工事発注時における課題の整理方法と課題解決のための検討プロセスが参考になった。

- 入札契約方式の相談窓口を早期に設置してもらいたい。
- モデル事業の成果は報告会にとどめず、全国の地方公共団体に幅広く広報してもらいたい。
- 多様な入札契約方式の導入が図れるよう、地方公共団体に対する継続的な支援を実施してもらいたい。

## 支援を受けた地方公共団体からの感想

- 専門的な知識・経験を有する支援事業者からのアドバイスにより、自ら気付かなかった様々な課題が明らかになり、内部組織だけで検討を行うより多面的な検討を行うことができた。
- 新たな入札契約方式の導入に向けたノウハウや先進的な取組事例などの情報が不足していたが、第三者（支援事業者）からの意見・助言等により、内部関係者への説明責任を果たすことができた。
- 何十年に一度しかない大規模事業や専門性・技術的難易度の高い事業などの場合、発注者のマンパワーやノウハウが不足していることが多いため、円滑な事業の推進には、専門的知見を有するCM等による支援が必要と感じた。
- 公共施設等総合管理計画における施設再編や性能不足等による施設の建て替えなどは多くの地方公共団体に共通の課題であり、発注者体制の補完やコスト管理などのため、事業の早い段階から技術支援を検討することは有効。

## 参考になった取組

